

中学、高校の6年間にわたって・・・
辞書を読むもう一つの楽しみは・・・

時・場面を示す（2）

言葉の世界を楽しむ

第8課

時・場面を示す(2) 言葉の世界を楽しむ

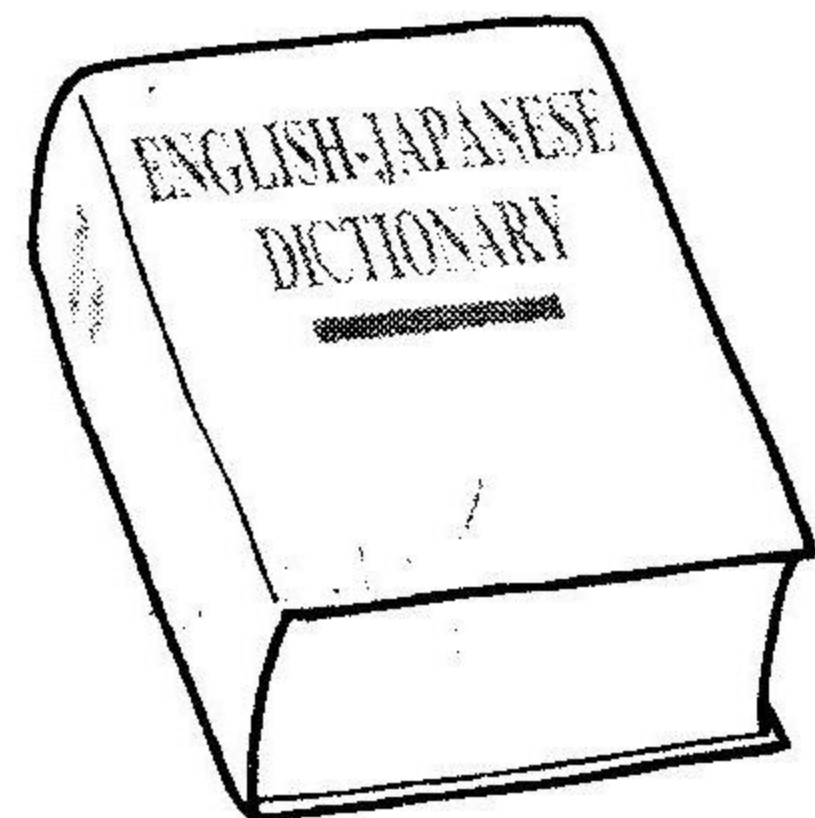
■本文を読む前に

- ・あなたは自国語の辞書(国語辞典)をよく利用しますか。それはなぜですか。
- ・「辞書を引く」のではなく、「辞書を読む」ことがありますか。読み物として、辞書は面白いと思いますか。

■本文



中学、高校の6年間にわたって、英語の辞書には随分とお世話になったが、国語辞典を引いた記憶はあまりない。国語の先生が「せめて英語の辞書の半分くらい国語辞典を引いてくれたらな。どうせ本棚に入れっぱなしで、ほこりをかぶっているんだらうな」とよく嘆いていた。結局、私が国語辞典を引くようになったのは、社会人になってからのことだ。おそらく自国の言葉の意味をわざわざ辞書を引いて調べることは、そんなに多くはあるまい。



考えてみれば、国語辞典というのはきちょうめんである。まさか辞書を引く年齢になって「右」の意味がわからない人はいないだろう。しかし、辞書は皆が知っているからといって省略できるわけではない。だから仕方なく書いているというわけでもないだろうが、基本語の定義は、「右」を調べたら「左の反対」とあり、「左」を見たら「右の反対」というふうに、結局何も説明したことになっていないことが多い。ところが、いくつか辞書を読んでいると、時には面白い発見もある。

ある辞書の「右」の定義には「アナログ時計の文字盤に向かった時に、1時から5時までの表示の有る側」[注1]とあり、別の辞書には「正面を南に向けたときの西にあたる側。人体で通常、心臓のある方と反対側」[注2]とある。基本語の定義にこんな苦心の跡が見えると、辞書の執筆も大変なのだと思う一方で、定義や説明の仕方を通してその辞書の個性がうかがえて、親しみさえ覚える。

辞書を読むもう一つの楽しみは辞書にはない説明を考えて、頭の^{*}体操を
やってみることだ。言葉の意味というものは、辞書の定義のほかに、実に
様々な物事と結びついて、私たちの頭の中に^{*}収納されている。だから、そ
の取り出し方次第では、別の説明が可能になる。

例えば、「学校」という言葉。たいていの辞書には、「教師が学生を教育
するところ」とあったが、いろいろな辞書にあたったところ、「学生が教育
を受ける施設」と書かれたものを一つだけ発見した[注3]。このことから
大人が^{*}作ると^{*}どうしても大人の視点で説明してしまうことがわかる。

「^{*}刑務所」はどうだろうか。案の定「^{*}受刑者を^{*}収容しておくところ」と
書かれている。これではあまりに^{*}一方的で^{*}味気ない。反対の立場になって
作文してみたらどうだろう。刑務所は「反省した末に、二度と^{*}罪を^{*}犯さな
いと^{*}誓いを立てるところ」だろうか。それとも、「二度と捕まらないよう
に反省するところ」だろうか。視点を変えた^{*}とたんに、色々な世界が見え
て来た。反省するどころか、「仲間と次の仕事の相談をするところ」だと言
えないこともない。いろいろと言葉の世界を楽しめそうだ。

注1：『新明解国語辞典』第5版（三省堂）

同辞典の第3版には「多くの人が^{はし}箸や金づちやペンなどを
持つほう（の手）」と書かれている。

注2：『現代国語例解辞典』第3版（小学館）

注3：『新潮国語辞典』第2版（新潮社）



■本文設問

- (1) 「国語辞典というものはきちょうめんだ」というのはどういう意味ですか。
- (2) 基本語の定義はどんなものが多いですか。なぜですか。
- (3) 筆者はなぜ「右」の定義を読んで「苦心の跡が見える」と思ったのでしょうか。
- (4) 筆者が考える「頭の体操」とは、どんなことですか。
- (5) 筆者はなぜ刑務所の定義で「案の定」と思ったのですか。
- (6) 筆者が考える「言葉の世界を楽しむ」とは、どういう意味ですか。

■本文新出語 (★は文型で学習)

| | |
|-------|---|
| 名詞 | : アナログ時計 ^{どけい} 文字盤 ^{もじばん} 正面 ^{しょうめん} 人体 ^{じんたい} 跡 ^{あと} 刑務所 ^{けいむしょ} 受刑者 ^{じゅけいしゃ} 罪 ^{つみ} |
| | 誓い ^{ちか} (←誓う) とたん(★～とたんに) |
| い形容詞 | : 味気ない ^{あじけ} |
| な形容詞 | : 一方的 ^{いっぽうてき} |
| 名詞/動詞 | : 記憶 ^{きおく} 定義 ^{ていぎ} 苦心 ^{くしん} 執筆 ^{しつぴつ} 体操 ^{たいそう} 収納 ^{しゅうのう} 収容 ^{しゅうよう} |
| 動詞 | : わたる(★～にわたって) 嘆く ^{なげ} うかがう(=推察する) 覚える(=感じる) ^{おぼ} 犯す ^{おか} |
| 副詞 | : ★せめて おそらく 通常 ^{つうじょう} ★どうしても |
| その他 | : ★～っぱなし ★～まい ★～次第 ^{しだい} [慣用句] 苦心 ^{くしん} の跡 ^{あと} |

◇基本動詞の用法

- ・(誓いを) 立てる

■単語の意味の確認 (※は既習語)

【嘆く、犯す、おそらく、定義、体操、収納、罪、仲間※、立場※】

1. クラスの () といっしょに遊びに行く。
2. () 犯人はもう遠くへ逃げてしまっただろう。
3. 「体罰」がいいかどうか議論する前に「体罰」とは何か () する必要がある。
4. 夏休みになると、子供たちは朝、広場や公園に集まって () をする。
5. () を () 人が刑務所で自分のしたことを後悔している。
6. 母親はぜんぜん勉強しない息子のことを毎日 () いる。
7. その人の () になって考えてあげることが大切だ。
8. アパートを借りる時には、() スペースがどれくらいあるか、よく調べたほうがいい。

体罰^{たいばつ} スペース

■ 文型・表現

「時・場面を示す」文型・表現(2)

☑ 初級(+)、中級基礎編(☆)で学習した文型・表現

- ・ ~から~まで+、~から~にかけて☆
- ・ ~てすぐ+、~とすぐ+、~たらすぐ+
- ・ 最後に+
- ・ ~たら・・・た☆
- ・ ~まま☆

(1) ~を通じて ★L.3

~を通して

意味・用法 「そのことが、~の期間の一部ではなく、すべてについて言える」という意味。

1. この国は一年を通じて/通して温暖な気候だ。
2. この駅前広場では年間を通じて/通して様々なイベントが催される。
3. 大学の四年間を通して/通じて、経営とは何かということを学んだ。

(2) ~にわたって、~にわたる+ [名詞]

意味・用法 「~の時間・期間続く」という意味。

1. サミットでは各国の首脳が国際問題について3時間にわたって議論した。
2. 万国博覧会は8月1日から半年にわたって開催される。
3. 長年にわたる戦争のため、あの美しかった街はすっかり変わってしまった。

(3) 「~て、すぐ」「~と、すぐ」の意味の表現

◆ [動詞た形] とたん(に)

意味・用法 「~した瞬間に(予想していなかったことが起こった)」という意味。

㊦ 実際には瞬間でなくても、「その前と後で様子、状況が全く変わった」という(意外さ)を強調する場合には使う。

1. あの子は私の顔を見たどたん、泣き出した。どうしたのだろう。
2. 掃除機のスイッチを入れたどたん、家の電気がすべて消えてしまった。
ブレーカーが落ちたのだ。

おんだん 温暖(な) もよお 催す しゅうのう 首脳 ながねん 長年 しゅんかん 瞬間 ブレーカー

第8課 時・場面を示す(2) 言葉の世界を楽しむ

3. 梅雨が明けたとたんに、猛暑になった。暑くてたまらない。

◆ [動詞辞書形] か [動詞ない形] かのうちに (※同じ動詞を使う)

意味・用法 「～するのとほとんど同時に」という意味。

- ㊟ 実際には同時でなくても、「その後ですぐに次のことが起きた／次の動作をした」という〈早さ〉を強調する場合には使う。

1. とても疲れていたのだろう。ソファーに横になるかならないかのうちに眠ってしまった。
2. 信号が赤から青に変わるか変わらないかのうちに、先頭のバイクが飛び出していった。
3. 隣の人にペンを貸してほしいと言われたので、貸してあげた。驚いたことに、こちらが「はい、どうぞ」と言うか言わないかのうちに、取って使い始めたのだ。

◆ [動詞た形] (か) と思ったら →L.10 本文

意味・用法 「～すると、すぐ」という意味。「～を確認した直後に意外なこと、予想以上のことが起こった」という気持ち。

1. さっきまで笑っていたかと思ったら、急に泣き出してしまった。
2. ドーンという大きな音がしたかと思ったら、次の瞬間大きな揺れを感じた。地震だと思い、慌てて机の下にもぐった。
3. ホームで電車が来るのを待っていた。電車がホームに入り、ドアが開いたかと思ったら、どっと人が降りてきて、押し倒されそうになった。

参考 「～(の)かと思ったら」が普通の意味で使われる場合。 ☞ 「～のかと思う」★L.2

- ・風邪かなと思ったら、すぐに薬を飲んでゆっくり休んだ方がいい。
- ・こんな時間にだれかと思ったら、隣の山本さんだった。
- ・店に入ったから、何か食べるのかと思ったら、道を聞いただけだった。

◆ [動詞(ます)形] 次第 ☞ 「～次第で」その他の文型

意味・用法 「～たら、すぐ」という意味。硬い表現で事務的なやりとり、改まった場面などで使われる。「のんびりしていないで、すぐに行動する」という気持ちが強い。

- ㊟ 過去の出来事には使わずに、これからすること／してほしいことについて使う。

もうしよ せんとう ちよくご ドーン どっと お たお
猛暑 先頭 直後 押し倒す やりとり

㊦ よく一緒に使われる単語

(※自動詞で出来事を表す動詞 ※話し手の意志を表す動詞は普通使わない)

→【着く、届く、決まる、分かる、(連絡が)入る、出る、(雨が)やむ、終わる、見つかる、整う】など

→【到着、完成、終了】

1. 「詳しいことは情報が入り次第／詳しいことがわかり次第、お伝えします」
2. 「雨がやみ次第、出発することにしましょう」
3. 「見つかり次第、ご連絡差し上げますから、ここに連絡先の電話番号を書いてください」

㊧ 〈名詞スル〉の単語は、直接「次第」に続く。

・「議長はただいまこちらに向かっているところです。議長が到着次第、会議を始めたいと思いますので、もうしばらくお待ちください」

(4) ～のは…てからのことだ ◀「～のは…以来だ」★L.2

意味・用法 「…てから～した」の順番を入れ替えた文型。「…」の部分強調したい時や
思い出しながら述べる時に使う。

1. 私が料理を自分で作るようになったのは、一人暮らしを始めてからのことだ。
2. そのことを知ったのは、彼がもう国に帰ってからのことだ。
3. あの子が学校に行かなくなったのは、中学に入ってからのことだった。

(5) [動詞た形] 末(に／の)、[名詞] の末

意味・用法 「(色々／あれこれ／あちこち／何度も～して)最後に」という意味。

1. いろいろ迷った末(に)、留学することにした。
2. 3時間にわたる激しい議論の末、ようやく意見がまとまった。
3. すばらしい試合だった。結果は引き分けだったが、両チームとも全力を出しきった末の引き分けだった。

(6) [動詞た形] ところ…

意味・用法 「～したら、…(ことがわかった)」という意味。

1. 直接会社に電話をして聞いてみたところ、その商品はもう扱っていなかった。
／その商品はもう扱っていないということだった。

ととの 整う(⇔整える) ただいま [只今] 入れ替える あれこれ あちこち ようやく
引き分け(←引き分ける L.9関連語) 全力

第8課 時・場面を示す(2) 言葉の世界を楽しむ

- 田中さんの趣味はわからなかったのだが、旅行のお土産にその国の伝統的な人形をあげたところ、彼はとても喜んでくれた。
- 電話帳で調べてみたところ、これと同じ名前のお店が20軒以上あった。
／が20軒以上あることがわかった。

(7) [動詞(ます)形] っぱなし (だ／で～／にして～)

意味・用法 「～たまま」という意味だが、「～っぱなし」の場合には、次のような場面で話し手の不快な気持ち、困った気持ちが強く出る。くだけた会話の表現。

①「それをした後にすべきことをしないで、そのままだ」

特に「それをしたのに、片づけない／元に戻さない(で、どこかへ行ってしまった)」
場合によく使われる。

②「同じ動作／出来事が続いていて、なかなか普通／元の状態に戻れない」

☐ よく一緒に使う動詞 (※①は他動詞、②は自動詞で人が主語になるもの)

①→【食べる、読む、脱ぐ、つける、出す、置く、やる、使う、開ける、(電源を)入れる】

②→【立つ、座る、歩く、笑う、(泣く)、苦勞する、お世話になる、負ける】

- 「こんな大事な銀行の通帳を出しっぱなしにして、どこに行ったのかな」
- 「また使いっぱなしじゃない! 使い終わったら片づけなさいって、いつも言ってるでしょう」
- 居酒屋でアルバイトをしているのだが、7時から10時にかけては忙しくて休む時間がない。ずっと立ちっぱなしでやっている。

その他の文型・表現

(1) ～次第で (は)

意味・用法 「～によって(は)」の硬い表現。

- この会社では年齢は関係ない。実力次第で年収もアップする。
- 「すべてがだめだとは言っていません。条件次第では、こちらも検討させていただきます」
- 「時間がない、時間がない」と言っている方へ。時間の使い方次第で、今の3倍～4倍のことができるようになります。時間を上手に使うことができる人が成功する人です。

でんげん 電源 つうちょう 通帳 アップ(する)